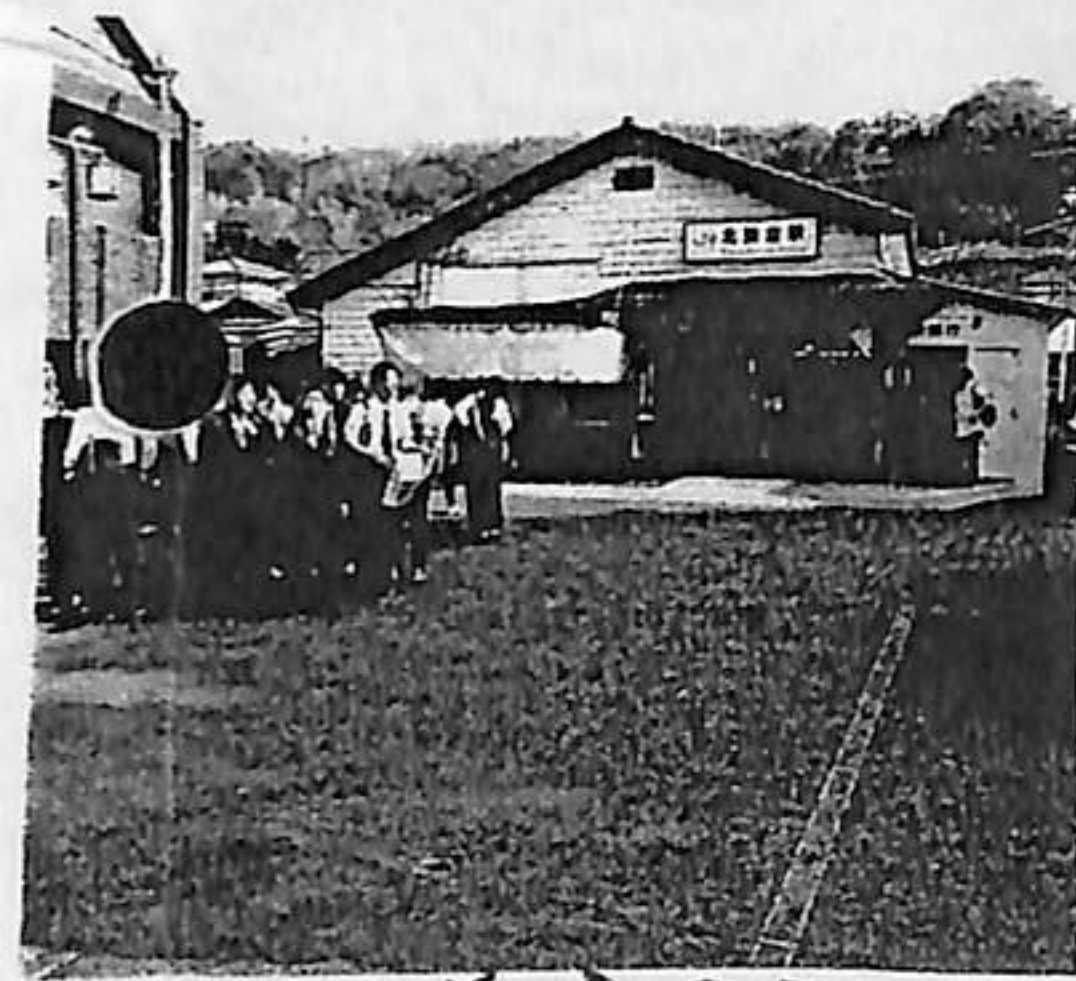


「城を歩く会」11月定例会「鎌倉の古刹、名刹を訪ねる」資料①

「亀ヶ谷坂切り通し」を歩く 平成23-11-25 山岸弘明

主要行程(タイムスケジュール=進行にご協力ください)

- 10時00分 北鎌倉駅前集合、開会式
- 10時20分~10時50分 東慶寺=女性を解放した駆け込み寺
- 11時10分~12時40分 建長寺=鎌倉五山第一位、絢爛金色に輝く芝増上寺移築唐門
- 12時50分~13時30分 亀ヶ谷坂=鎌倉七口、鎌倉城の守り
- 13時40分~14時10分 英勝寺=徳川家康側室お勝創建の水戸家の尼寺
- 14時20分~14時50分 寿福寺前(小休止)有志で北条政子の墓=源頼朝の妻、尼将軍
- 15時10分~ 鶴岡八幡宮=鎌倉のシンボル。源氏の守護神
- 16時00分 八幡宮境内で解散



北鎌倉駅

①東慶寺

②建長寺

午前9
コース

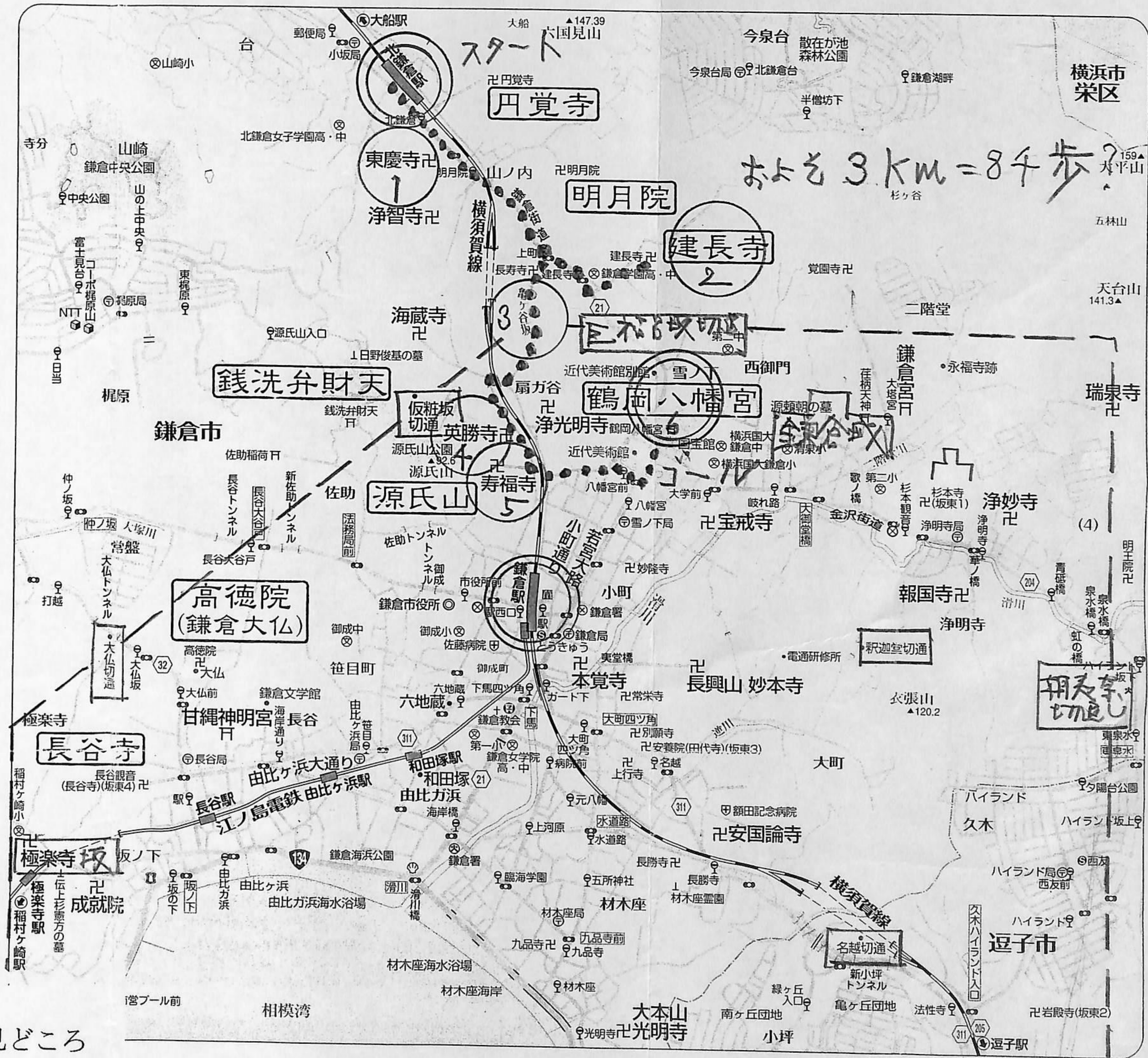


③亀ヶ谷坂

④英勝寺

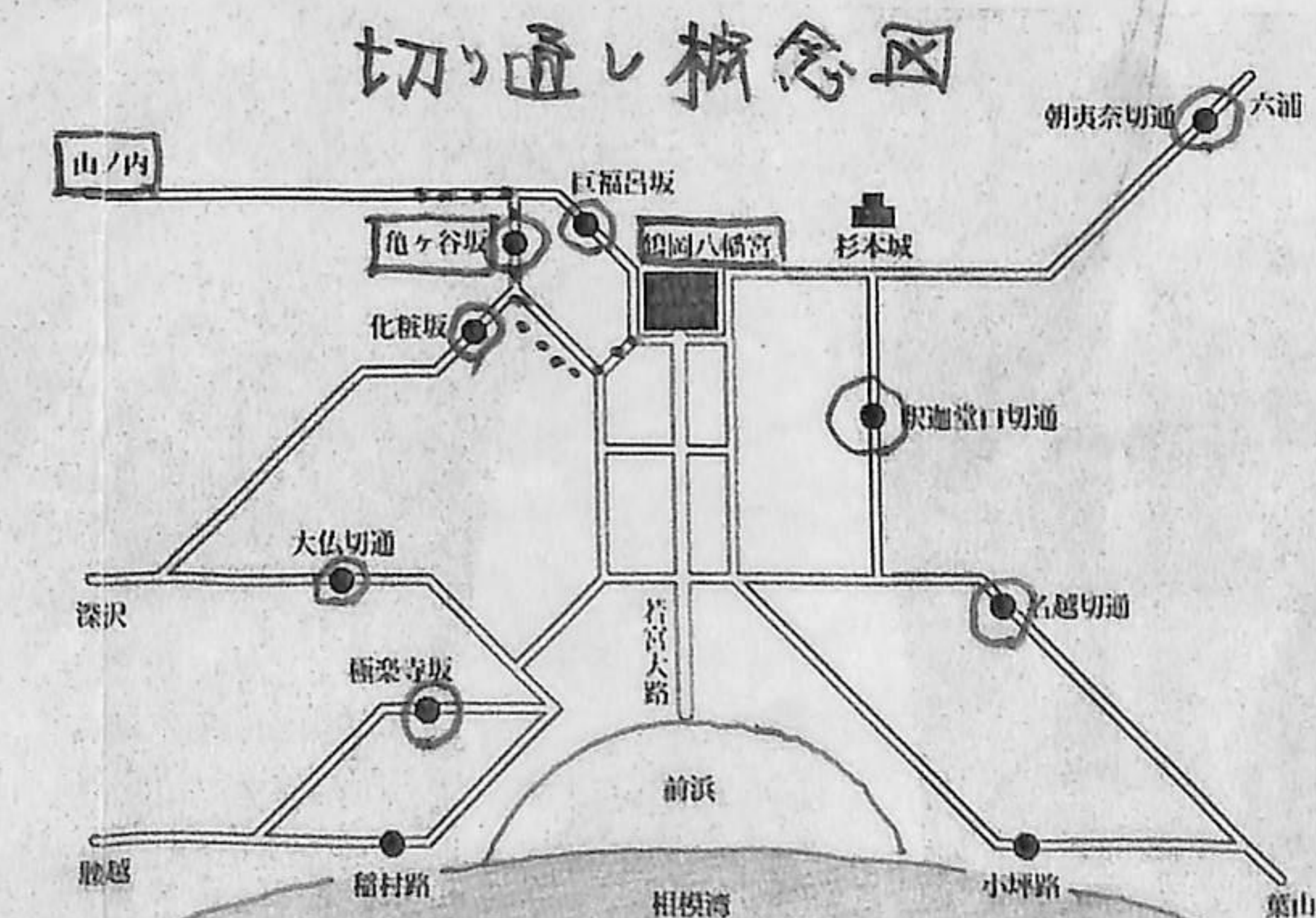
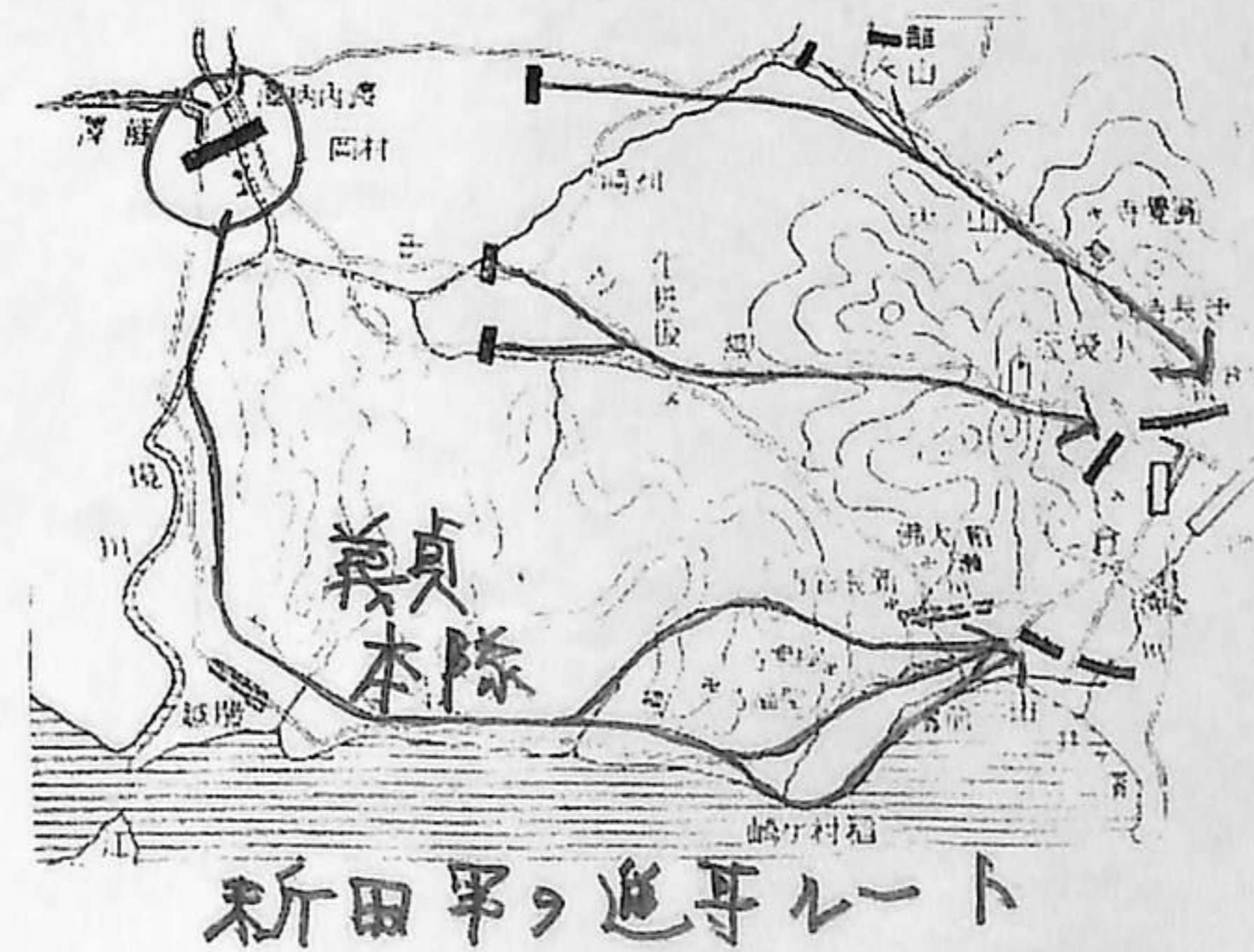
⑥鶴岡八幡宮

午後9
コース



大河ドラマは「お江」から「平清盛」へ。鎌倉「古刹、名刹」、もう1つの見どころ

- 平成23年ドラマ「お江」ゆかりの地
東慶寺天秀尼の墓=お江の娘千姫の夫豊臣秀頼と側室の娘。女子のため助命され東慶寺に入る。千姫の後見で住職となり、駆け込み寺発展に尽くした。正保2年没37才
- 建長寺仏殿、唐門(国重要文化財)=ともに芝増上寺お江御霊屋から正保4年譲渡、移築。仏殿は寄せ棟屋根、格天井に注目、唐門は豪華絢爛、黄金に輝く
- 薬王寺徳川忠長の供養塔(市指定文化財)=お江が溺愛した2男で家光の弟。駿河50万石となるが家光との確執で改易、自害を命じられる。寛永10年没28才、正室、側室連名で碑文を刻む
- 鶴岡八幡宮2の鳥居=お江が家光の安産を祈願、無事長男誕生で石鳥居を寄進
- 平成24年ドラマ「平清盛」ゆかりの地
頼朝と鎌倉城と鶴岡八幡宮=宿命のライバルが開いた武士の政権、儀式の中心は鶴岡八幡宮
- 寿福寺北条政子の墓=頼朝の妻。夫没後「尼将軍」として源氏を統率



「頼朝の首を予が墓にそなえよ」。「情けが仇」幼なごを助けて一族を滅ぼした平清盛

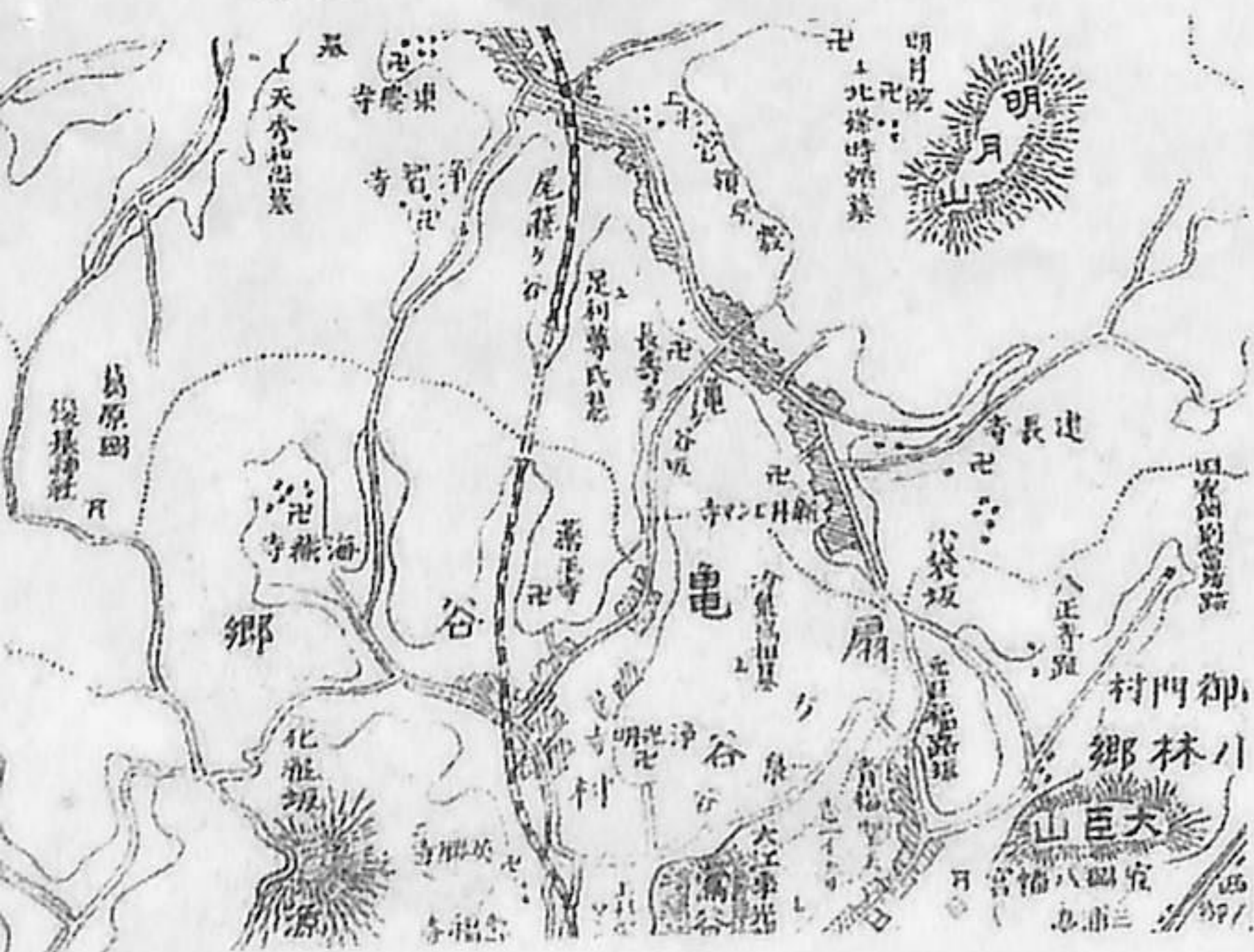
北条得宗家が守った鎌倉城からめ手の要塞、亀ヶ谷坂切通し

1) 源頼朝が築いた鎌倉幕府の本拠——鎌倉城

- ①治承4年(1180)平家討伐の兵を起した源頼朝は10月軍を鎌倉に進めて本拠とする。
以後自らは東国の安定確保に専念、この間、軍は富士川の戦い、屋島の戦い、壇ノ浦の戦いの勝利で平家を一掃、建久3年(1192)念願の征夷大将軍に任じられ鎌倉幕府を開いた。
*来年度大河ドラマ「平清盛」では頼朝との源平合戦がクライマックスとなる
- ②鎌倉は三方を馬蹄形の小高い山に囲まれた谷地で天然の要害であった。
*平安京に代表される地形、少なくとも平安時代には理想的な都城と考えられていた
*頼朝が鎌倉を選んだ理由は、源家由来の地に加え立地と地形が考慮された
- ③幕府は7か所の切り通しを築き堅固な防御施設とした。
*切り通しは鎌倉、室町時代を通じて鎌倉城防御のため構築されたが、近世以降交通利便のため急坂が削られ、近年都市開発にともなう道路拡幅で当時の遺構の多くが消滅している
- ④鎌倉が攻められた記録は3回(太平記による)、いずれも落城。戦法の変化ですでに完璧とはいえなくなっていた。
*元弘3年(1333)の新田義貞=切通しは破れず稲村ヶ崎の海岸を通って城内に突入、鎌倉幕府滅亡
建武4年(1337)の北畠頼朝ら=鎌倉にいた足利義詮を朝比奈切通しから攻め落す
文和元年(1353)の新田義興ら=初代鎌倉公方足利基氏を攻め落城。尊氏向かうとの報で退去
*鎌倉後期、朝夷(比)奈切通し対策として杉本城を築くが建武4年の戦いで落城

2) 鎌倉城の出入り口——鎌倉七口

- ①鎌倉七つの出入り口。戦時は敵の侵入を防ぎ平時は交通の便利をはかる。求められた矛盾。鎌倉府、関東管領が置かれた室町時代にも軍事、経済両面で重要な役割をはたした。
- ②極楽寺坂切通し=坂ノ下~七里が浜。腰越、片瀬を経て東海道へ
大仏坂切通し=長谷~常盤。深沢、藤沢を経て武蔵、上信越へ
化粧(けわい)坂切通し=扇ヶ谷~梶原。深沢、藤沢を経て武蔵、上信越へ
亀ヶ谷坂切通し=扇ヶ谷~山ノ内。武蔵、奥州方面へ
巨福呂(こぶくろ)坂切通し=武蔵、奥州方面へ雪ノ下、山ノ内から武蔵、奥州方面へ
朝夷奈坂切通し=十二所~六浦。房総。常陸方面へ
名越切通し=大町~逗子。葉山を経て衣笠、浦賀、三崎方面へ
- *7口は後世の俗称、このほか釈迦堂口、稲村路、小坪路など何か所かの通路があったと考えられる
- *新田義貞の鎌倉攻略は腰越から稲村路(海岸)、極楽寺坂切通し、深沢から化粧坂切通し、山ノ内から巨福呂坂切通しの3ルートから城内に突入した
- *当会ではこれまで極楽寺坂、大仏坂、朝夷奈坂切通しを見学、とくに大仏坂旧道で厳しい鎌倉城の守りを体感した



↑亀ヶ谷切通し



←長寿寺横の入り口

3) 亀ヶ谷切り通しの守り——足利尊氏ゆかりの長寿寺

- ①建長寺前の山ノ内側谷(やつ)地は鎌倉城からめ手切り通しで最大の要地、鎌倉時代は執権・北条氏が守備、室町時代は上杉管領家が守った。やつ全体に厳しい防御体制が布かれたといえよう。
- ②長寿寺は臨済宗建長寺派に所属、山号・宝亀山を号した。当時の切り通し虎口がこの地点であったとすれば長寿寺周辺は緊急時の前線基地となる。
*亀ヶ谷坂道のルート解明はすすんでいない
- ③長寿寺は室町時代はじめ鎌倉公方足利基氏が父・足利尊氏の菩提を弔うため建立、寺伝は尊氏開基ともいう。石段上にかやぶきの山門が見える。足利尊氏の墓、坐像、閑静な庭があるが通常は非公開。
- ④茶屋かどの間の小道、亀ヶ谷切り通しを登る。コンクリート舗装されて歩きやすい。
*車両は進入禁止だが時々バイクや自転車が通行する

4) 旧道は謎のまま——亀もひっくり返った急坂

- ①7口の1つで山ノ内と城内扇ヶ谷(おうぎがやつ)を結び、扇ヶ谷で化粧坂と接続する。
*武蔵、奥州方面の備え、山ノ内からの切り通しは巨福呂坂と2か所、鎌倉城からめ手にあたる
- ②「吾妻鏡」では仁治2年(1240)執権・北条泰時開削とする。
- ③坂名の由来は、この坂を登ろうとした亀があまりの急坂でひっくり返ったためという。
- ④紅葉が真っ盛り、切り通しの景観を楽しみながら進む。いまは一直線の道、当時の古道は不詳。山麓を大迂回したと考えられる。
*大仏坂切り通しを思い浮かべる。わざわざ迂回させ、切り岸や駒返しを築き置石などの障害物を作った。亀ヶ谷でも山腹に人工的な平場や土塁、堀切などが確認されたが関連は未詳。明治中期の測量図はすでに直線で早くから改変が進んだことが伺われ、亀ヶ谷坂の西、浄智寺と海蔵寺間にも旧道が確認される
- ⑤一直線に200mほど登ると峠部分に出る。岩肌もあらわな切り立つ急崖が圧倒する。亀ヶ谷坂最大の見どころといえる。
- ⑥教育委員会史跡看板=国指定史蹟 亀ヶ谷坂 昭和44年6月15日指定
扇ヶ谷と山ノ内を結ぶ道で、鎌倉から武蔵方面に通じる重要な出入り口であり、中世鎌倉の切り通しとしての旧状よくとどめている。鎌倉時代初期より使用されていたと推定され、巨福呂坂と共に鎌倉街道中ノ道の基点とされている。
切り通し=山の尾根部分を掘り下げて通行可能にすると同時に敵の進入に対する防御施設としたのが切り通し。亀ヶ谷坂、朝夷奈切通し、巨福呂坂、化粧坂、大仏切通し、名越切通し、極楽寺坂の7つを称して鎌倉7口(切り通し)といい国の「歴史道百選」にも選ばれている。
*頂上付近の岩肌に六地藏像、石はさして古いものではない。設置当時の坂の高さを示している
- ⑦ここからが下り、城側の方が急坂、反対側からの山越えは大変だ。
- ⑧途中石段=上は墓地で延寿堂跡。立ち入り禁止。隋道状マンション=勝縁寺跡。北条氏創建と伝わる。
- ⑨坂を降りきったところが扇ヶ谷となる。



紅葉の切り通しを歩く



延寿堂跡↑↓



切通し付近の岩肌

水戸徳川家の尼寺、太田道灌ゆかりの英勝寺

1) 駿河大納言の供養塔がある日蓮宗の名刹——薬王寺

- ①薬王寺は元梅嶺寺といい、永仁元年(1293)日像上人が荒廃寺を興こして日蓮宗の道場とした。
- ②徳川 2代將軍秀忠の2男駿河大納言忠長の供養塔、松山城主・蒲生忠知夫人の墓などがある。
- ③墓地から市街が遠望できるが今回は立ち寄らない。

2) 鎌倉時代商業地として賑わった辻——岩船地蔵

- ①化粧坂からの道と交差する岩船地蔵地蔵あたりが「吾妻鏡」にある「亀ヶ谷辻」で、武蔵大路下に相当するとされる。鎌倉時代商業地として賑わったという。
- ②岩船地蔵は源頼朝の長女大姫の遺体を葬ったお堂だという。大姫の夫である木曾義仲の長男・志水冠者義高が頼朝の命で殺害されたことを知った大姫は嘆き悲しみ病死してしまう。
- *頼朝、義仲和睦のための結婚、しかし義仲を討った頼朝は後の災いとならないよう義高の殺害も指示した
- ③堂内に岩石造りの船型地蔵を安置している。
- ④三つ辻を左にとると鎌倉市街、右は化粧坂へ。元弘3年化粧坂を破った新田義貞軍はなだれを打って鎌倉市街に突入した。

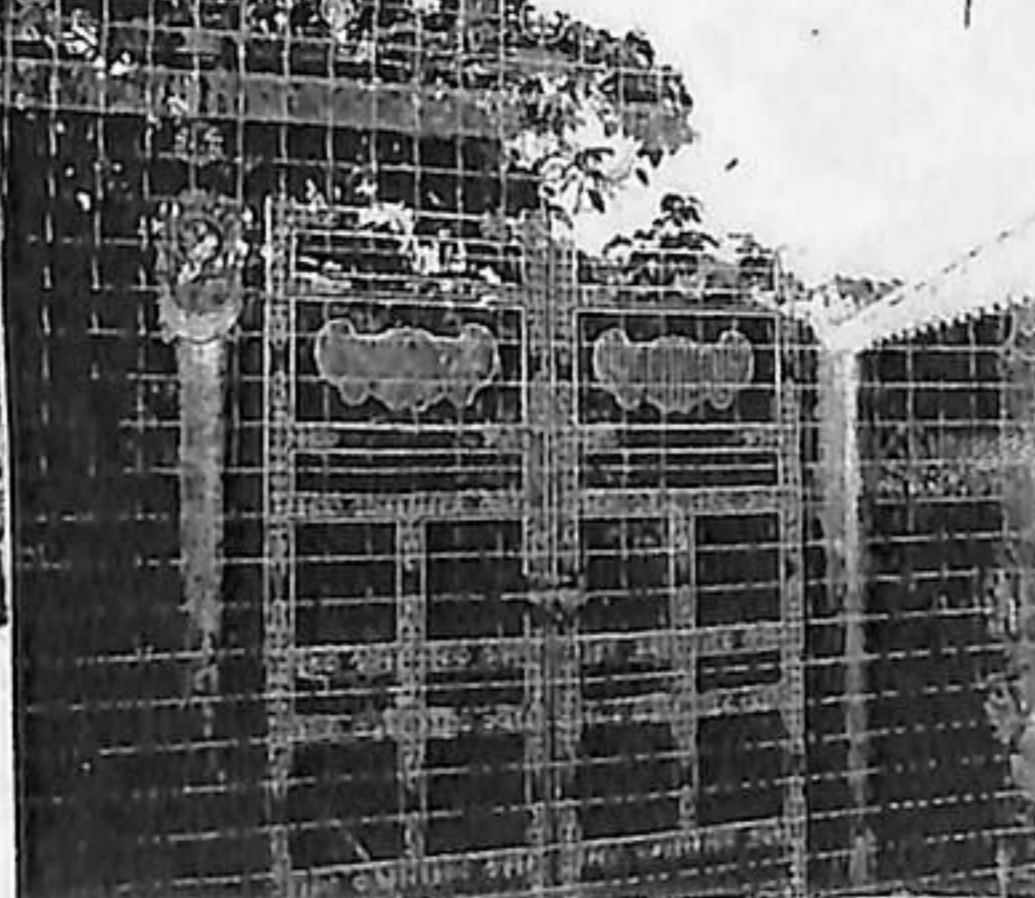
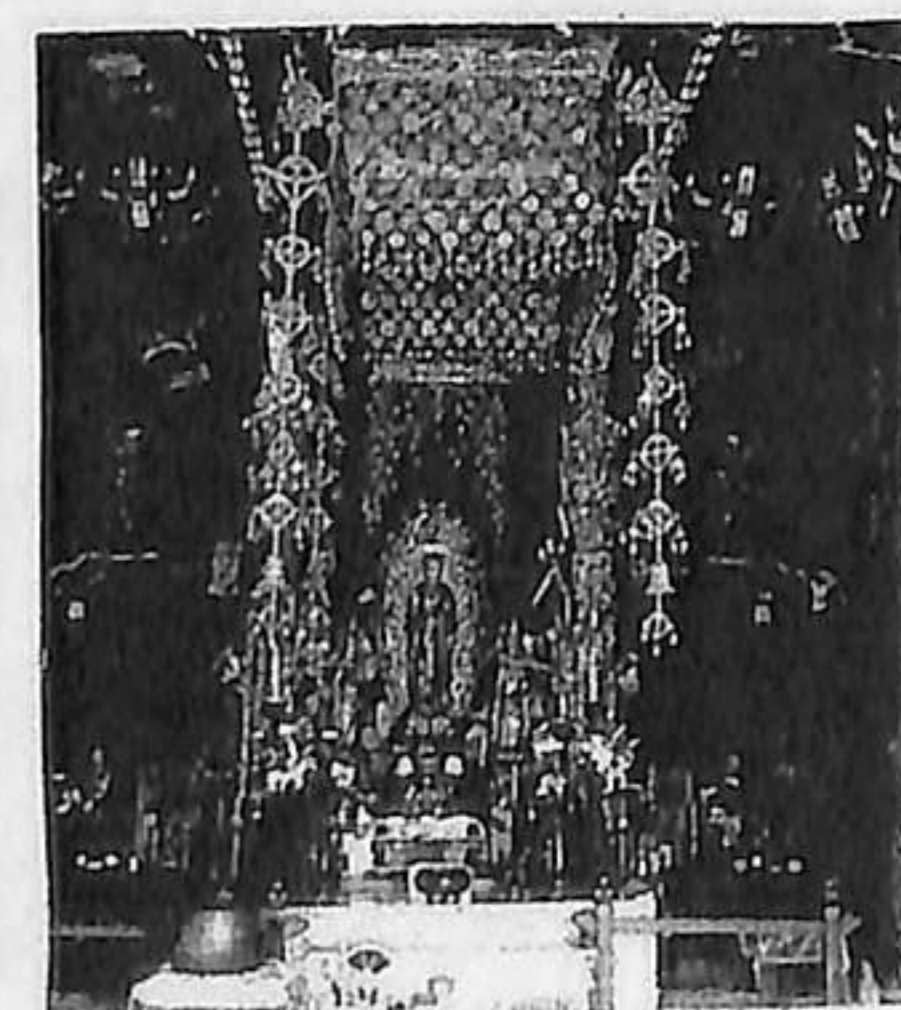
3) 鎌倉唯一の尼寺——家康の側室お勝が開基した英勝寺

- ①浄土宗。東光山英勝寺
- ②寛永13年、太田道灌の子孫・太田康資の娘で徳川家康の側室となったお勝が道灌の旧邸跡に開基。寺号はお勝の法号・英勝院にちなむ。
- ③お勝は市姫を生むが早世、家康の命で水戸頼房の養母となった。家康の没後、鎌倉に太田道灌屋敷跡があることを聞いて3代將軍家光に菩提寺建立を願い出、水戸頼房の娘・小良姫を初代住職とした。
- ④お勝は寛永19年逝去、英勝院に葬られた。翌20年の1周忌に頼房と子の光圀、孫で高松藩主となった松平頼重が訪れる。仏殿と祠堂を頼房が、光圀は墓碑を、頼重は山門を建立した。
- ⑤代々水戸家の娘が住持となり、水戸家の尼寺と呼ばれて江戸後期に及んだ。現在、鎌倉唯一の尼寺。
- ⑥総門前の教育委員会史蹟看板＝英勝寺
初期の江戸城を築城した太田道灌の子孫で、徳川家康に仕えたお勝(英勝院)が道灌の屋敷跡に建てた尼寺です。(中略)お勝の方は水戸徳川家の初代頼房の養母であったことから代々水戸家の娘が住職を努めています。江戸時代は水戸御殿と呼ばれたほど格式が高く、総門には三つ葉葵の紋を掲げながら武家屋敷のような境内でした。仏殿、祠堂、唐門、鐘楼は江戸時代初期の建築で、これだけよくそろい、当時のままで残っている寺は少なく貴重です。



中心と僧舎 仏堂

総門



内軒 (非公開)

寺堂内9祠堂

山内

中庭

お勝の墓

⑦仏殿(県指定重要文化財)＝

寛永20年水戸徳川頼房建立。方行造り平屋、もこし。本尊は家光寄進の阿弥陀三尊像。右に観音菩薩、左に勢至菩薩像を祀る。蛙股に十二支を彫り、扉にせみを止める。扁額は「宝珠殿」宝物殿の意味か。仏殿の天井などに水戸徳川家葵紋、鳳凰がみえる。

*仏殿説明板解説＝本尊は阿弥陀三尊の立像で運慶作と伝えられる。仏殿は水戸頼房の後援によりその母英勝院を開祖として寛永12年に創建され蛙股には十二支を刻む。同二十年山門と鐘楼が完成し、堂門とも軒一直線の英勝寺口□(汚れ判読不能＝様式か)ともいうべき伽藍が完成された。

⑧唐門(県指定重要文化財)＝寛永20年建立、祠堂の門、小さいが欄間のぼたん彫刻は精巧

⑨祠堂(御霊屋＝県指定重要文化財)＝寛永20年の1周忌にあわせ頼房が建立。保護のためさや堂で覆うがガラス越しに外観の一部がみえる。金粉や極彩色の文様で飾られた柱や扉は日光東照宮を彷彿させる。残念ながら内部は非公開、引用写真で我慢してください。

⑩山門＝寛永20年松平頼重が寄進。保管していた旧材で復元。2階造り楼門

⑪はかま腰鐘楼、⑫洞窟くぐり、⑬庭園、竹林

⑭英勝院の墓＝変形笠塔婆、笠が変わっている。碑文は<英勝院長普清春大禅定尼>と年号など。残念だが近寄れず判読はできない。お勝が養子とした太田資宗は秀忠に近侍、子孫は加増転封を重ねて掛川5万石に栄進、資美のとき明治維新で上総柴山に移封して廃藩置県を迎えた。

英勝寺のしおり

東光山英勝寺は、現在鎌倉では唯一の尼寺である。寺域は太田道灌公の跡地であり、鎌倉市扇ガ谷に在る。

当寺は、水戸中納言頼房の准母である英勝院尼の創建で、寺域は広く風致極めて幽静といわれ、(寶珠殿と呼ばれる仏殿には徳川三代將軍家光寄進による運慶作の阿弥陀三尊如来像を安置している。

仏殿・鐘楼・祠堂などの建築様式は、他の鎌倉諸山とは異なり、それは室町末期桃山系統を象徴する江戸初期の名建築であり、中でも十二支を刻む羂股をめぐらした仏殿、袴付きの鐘楼や石仏の来迎三尊仏を背景に彩色をほどこした祠堂は文化財として後世に残す価値が大いにある。

大正十二年の大震災に遭い、庫裡・蔵などは倒壊し、今は住時のおもかけをなかに損ねてはいるものの、仏殿・鐘楼・唐門・祠堂(廟・水戸光圀建立)などは県指定文化財として異色を呈している。

英勝院尼は、太田道灌四代康資の息女で徳川家康に仕え、お勝の方(戦いでは必ず勝利をもたらしたので)といわれたが、その性質は聡明にして温雅貞淑いうことであつた。その後、家康公の命によって頼房の准母となり、家康公薨去後寛永十一年落飾(薙髪出家)し、家光公より父祖旧縁の地、道灌公の故地を賜つて、この地に英勝寺を創建したのである。そして、尼公は自身の菩提のために念仏道場を創め、頼房卿の息女小良姫を七歳の時に玉峯清因と名づけ得度出家させ開山第一祖とした。

玉峯清因尼は九十歳で入寂し、その間に英勝寺は寺領に三浦郡池子村に四二〇石の朱印地を与えられ、寺領にそえて源義家東夷征伐の時に旗を立てたと伝えられる旗立山通称源氏山を賜っている。山腹には道灌公の首塚があり、境内には『十六夜日記』を著した阿仏尼の卵塔、智岸寺稻荷などがあり史蹟に富んでいる。

英勝寺尼は、寛永十九年八月二十三日六十五歳で寂し、法号は「英勝院殿長普清春」と諡する。

その後は代々水戸家の姫君が住持として入山していたが、嘉永六年六代清吟尼入寂後は水戸家よりの住持は絶え、その後は徳川家の支援によって維持され、明治二十八年より松平家より住職を迎え、大正八年入寂以後は東京青山善光寺から住職を招聘して今日に及んでいる。

お勝の方 天正六年、房州湊に生まれる。里見氏の旧臣太田源六郎康資(新六郎とも、また入道三樂、武庵ともいう)の女。お棍ともいう。

中の側室三人衆の一人、また後の側室三人衆の一人にも数えられた。養子(甥)に六人衆太田備中守資宗がいる。

天正十八年、十三歳のときに家康に仕えた。慶長十二年、一子市姫をもうけたが早世する。しかし、その聡明の故をもつてことに寵愛され、慶長十五年(元和二年ともあり)にはお方の方の一子頼房の准母となつたほか、頼房の女大姫(のち家光の養女で前田光高の妻)、秀康の次男忠昌、池田輝政の女で家康の外孫撫姫などの養母ともなつた(慶長十六年)。大奥における権勢にはなみなみならぬものがあつたらしい。大坂の陣にも供奉をしてゐる。だが、一説として次の話も伝えられてゐる。いつのころにかお勝の方は家康の寵臣松平正綱に下げ渡されたことがあつた。しかし、お方が正綱を嫌つたためまた家康のもとに戻されたというものである。ときに元和二年、家康没後、薙髪して英勝院と称する。このうち、家光の殊遇を受け、しばしば城中で飲(閑)談に及んだ。寛永十一年、祖先道灌の故地鎌倉の扇ヶ谷に幕府より寺地を賜つてそこに一寺を建立した。英勝寺という。頼房の一女を養つて住持とした。同十八年、病を發し、翌十九年に没する。家光により頼重に弔られた。六十五歳。英勝寺に葬る(江戸瑞松寺とも)。

ダウン症書家

大河ドラマ

平清盛に入魂

ダウン症のハンディのある東京都大田区の書道家、金沢翔子さん(26)の書が、来年一月八日から始まるNHK大河ドラマ「平清盛」の題字に採用された。毎回の放送の冒頭に登場する。生後間もなくダウン症が判明し、書家の母幸子さん(56)も「当初、一緒に死ぬことばかり考えていた」と言いつつ、翔子さんは五歳(3)から書道を学び、活動を続けてきた。(丹治早智子)

金沢さんが揮毫したNHK大河ドラマ「平清盛」の正式ロゴ

来年の大河 題字揮毫

十歳で般若心経を書き上げ、二十歳で初の個展を開催。「大胆な中に慈愛を感じさせる」と書の評価が高まり、一昨年は「風神雷神」と書いた作品が京都・建仁寺に奉納された。最近半年間二十回以上の個展を開催。十二月には奈良・東大寺での個展が控えている。題字の依頼は今年五月に受けた。翔子さんの個展を見た大河ドラマのプロデューサーが「ぜひ書いてほしい」と伝えてきた。幸子さんは「大家が手掛けるような番組の題字を、なぜ翔子が」と驚き、「書を見て決めた」と聞いて、本当にうれしかったと喜んだ。障書がある翔子さんは当初、平清盛がどんな人物か、平家物語がどんな話か理解できなかった。幸子さんが手本を書いたり、清盛について語ったりし、次第に理解していった。

ゆかりの地「アトムのように強く、優しく」歩きイメージ



作品の前で笑みを見せる女流書家の金沢翔子さん(左)と母の幸子さん(右) 東京都大田区で

平成24年度大河ドラマを飾る話題の書家「城を歩く会」当面タスケジュール

- 今後のスケジュール(詳細は会報第42号および1月14日発行予定の第43号参照)
- 1月定例会「新年の集い」1月14日(土曜)12時00分開宴 日比谷中日ビル シーボニアメンズクラブ
 - 2月定例会「京王線で武蔵台に残る古城をめぐる=片倉城址、深大寺城址」2月18日(土曜日)10時00分出発、京王電鉄高尾線京王片倉駅集合
 - 3月定例会「春季研修会」3月13日(火曜)13時15分開始 JR大森駅下車 入新井集会所
 - 4月定例会「一泊見学会、信越の城を訪ねる=上田城、飯山城、越後福島城、春日山城、高田城」4月4(水曜)~5日 上野集合

鎌倉七口物語



大仏坂切通し

「切通し」とは、山や丘などを切りひらいて通した道をいう。三方を山にかこまれた大仏の要害鎌倉には、俗に「鎌倉の七切通し」「七口」と呼ばれる切通しがある。鎌倉時代、敵の侵入から鎌倉を守るうえでの重要な拠点としての役割をはたすとともに、外の世界への窓口となった。

極楽寺切通し

極楽寺を開創した忍性がひらいたと伝えられる。忍性は真言律宗の僧。道路や橋をつくったり貧しい人々を救済するなど社会事業に力をつくした。切通しは、坂ノ下から腰越、片瀬へのびて東海道に通じた。京都と鎌倉をつなぐ大切な道でもあった。義経が平家の大物を捕虜にし、鎌倉へくだったもの切通し。新田義貞の鎌倉攻めの際には、義貞軍がここからの侵入を図ったが、幕府軍の防備は固く、新田軍は退けられたと太平記に記されている。現在は左右の樹影の下を舗装路がのびている。

大仏坂切通し

梶原、山崎から藤沢へとひいていた。「古へは深沢切通とも唱へけるといへり」と、ふるい書物にはある。作家岡本田独歩は、明治35年頃のこの切通しの様子で、「大仏坂の切通しは、鎌倉の地質にして初めて作り得るといふべきもの、左右の絶壁数十間」と「鎌倉の裏山」に描写している。現在も、左右の絶壁は当時を偲ばせるように残っている。

化粧坂

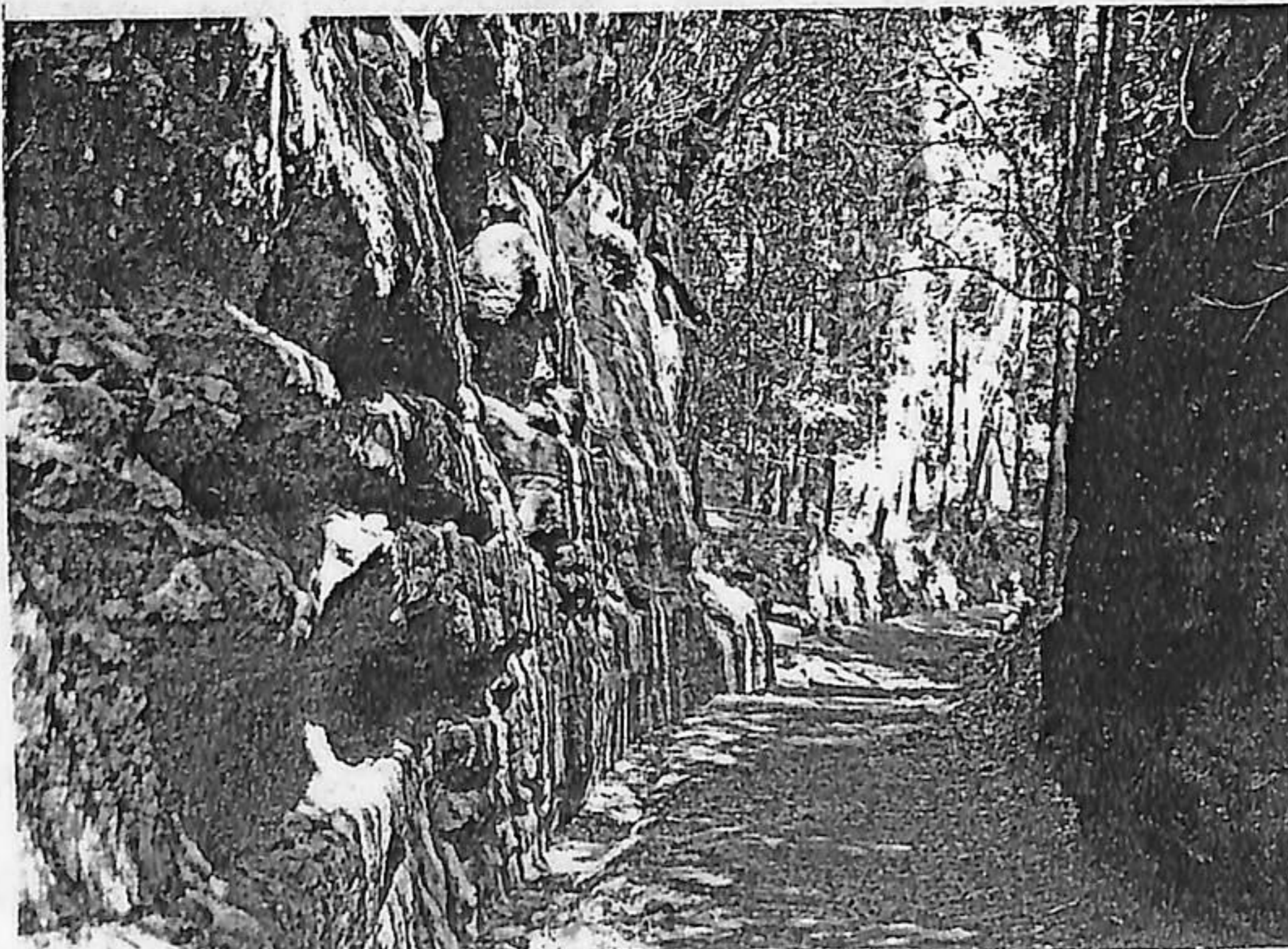
首実検の地? 海蔵寺の手前から山に入り、

亀ヶ谷坂

扇ヶ谷と山ノ内をむすぶとともに、化粧坂同様、武蔵方面へ通じる。吾妻鏡は、仁治元年(1240)、3代執権北条泰時が要路だった山ノ内道を整備したと伝えられている。この坂をのぼ

巨福呂(小袋)坂

鶴岡八幡宮の真参道のあたりから西の方角へ向かう道が旧来の巨福呂坂。やはり北条泰時が建長2年(1250)に整備したとされる。いしへの面影をしのぶ12基の庚申塔や道祖神などならび、その記録から江戸時代の末期に改修工事が行われたこともわかる。なかには工事の事故で不幸にもいのちを落と



朝比奈切通し

朝比奈切通し

鎌倉と六浦をむすぶ。六浦は現在の横浜市金沢区。鎌倉時代には安房や上総など各地の物資の集散地として、また、交通、戦路上の大切な拠点として鎌倉の「生命線」だった。朝比奈切通しは鎌倉と六浦の境界となった。鎌倉幕府初代の侍所トッパ和田義盛の子朝比奈義秀がひと晩でひらいたという伝説もある。鎌倉七口でもっともかつての雰囲気を感じているといわれる。

名越切通し

鎌倉から三浦へ通じる。名越トンネルの上、かつての切通しの面影はのこっている。道筋は、日本武尊が東夷を制圧する際に通った古東海道筋ではないかとみられる。文献のうえではじめて「名越坂」の文字が確認されるのは「吾妻鏡」の天福元年(1233)8月18日のくだりだ。かつては鎌倉と三浦の境界をなした切通しは、いま鎌倉市と逗子市の境になっている。

番外(八口)

秋津野切通し

〇印
当会がこんなコース
回ったコース



名越切通し